

ネットワークボード

「どんなに重い障がいがあっても、地域社会で暮らして行く」・・・本当に少しずつではありますが、そんな住まい方が注目され始めています。知的障がいのある人が重度訪問介護（居宅ヘルパー）のサービスを使えるようになって10年あまり経ちますが、まだまだ浸透しておらず、支給決定を求めても、自治体の窓口で断られるケースもあります。当事者や家族、支援者、学識者の有志で構成されている「自立生活を考える会」では、2か月に一度オンラインサロンに50名以上の参加者が集まり、全国の実践事例について紹介、意見交換を行なっています。

（編集部）

【オンラインサロン】

知的障害のある方の「一人暮らし」を応援！

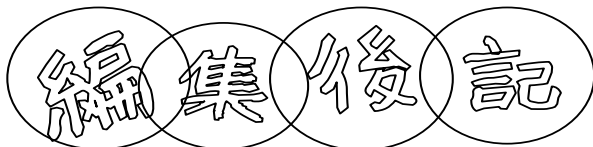
カプカプ川和（横浜）の自立支援の取り組みとは？

8月7日（木）18：30～20：30

<https://everevo.com/event/92482>

※参加費 無料（カンパあり）

・7年前に利用者の一人が「支援つき一人暮らし」を始めてから、お部屋に遊びに行った人や話を聞いた人などが次々に希望を持ち、一人暮らしを実現しました。事業所内で彼らと会話する中で感じた一人暮らしへの憧れや、実現までの道のりなどを対談形式で話していただくほか、何人かの方のお部屋訪問VTR（レポーターは最初に一人ぐらしを始めたひーやんさん）も流します



この度、編集委員に就任しましたおかし屋ぱれっとの山元です。パソコンを使うのが得意ではないですが、これを機に色々な作業が出来るようになりたいと思います。皆さんが読むのを楽しみにして頂けるよう頑張りますのでよろしくお願いします。

私は「つうしん」と聞いて思い出した事があります。それは小学生の頃に学校や地域の子ども会で、近所で起こった出来事や紹介したい事などを載せる「つうしん」を作っていた事です。皆で集まって絵を描いたり、何か記事になる物が無いか近所を探したりするのが楽しかった思い出があります。

また子ども会ではガリ版を使って刷って作っていました。みなさんはガリ版をご存知でしょうか。正式名称は謄写版という簡易印刷機です。鉄筆でロウを削って原版を作成し、インクをローラーで転がして印刷します。ガリ版という名前は鉄筆で原版を作る時に「ガリガリ」と音がする事が由来だそうです。昭和時代には学校のテストや回覧板など身近なところで使われていました。コピー機が普及するまでは、庶民にとって手軽に情報を発信する手段として重宝されたようです。

滋賀県東近江市には『ガリ版伝承館』があります。ここはガリ版を発明した堀井新治郎父子の本家を改修したもので、世界に誇る偉大な発明王として後世に伝えて行くことと、温かみのあるガリ版文化に触れてもらうことを目的に開館したようです。開館時はガリ版体験も出来るそうです。入場無料なので興味のある方は行ってみたいはいかがでしょうか。（やまもと）